


# ACT NEWS

エー・シー・ティー ニュース

こんにちは、ACTニュース編集部です。2014年から湯河原中で始まったこの取り組みも今年で6年目を迎えます。そこでこのたび保護者の皆様、町の皆様にこの取り組みについて、そして生徒さんたちの活動を知ってもらおうと定期的に新聞を発刊することとなりました。ご家庭で「どんなことしたの?」と話題にしていいただければ幸いです。

ACT NEWS 第1号 令和元年10月発行 発行元：湯河原町教育委員会・特定非営利活動法人 まなびとくらし

## ACTってなーに？



2014年度にスタートしたこのプログラムは「社会で人と人が関わりながら生きていくために欠かせないスキルを身につける訓練」という広い意味でのソーシャル・スキル・トレーニング (SST) として実施されてきました。2018年度からはアート・コミュニケーション・トレーニング (ACT) という名称に変更し、「人と人とが関わりながら生きていくために」というテーマを引き継ぎつつ、湯河原町発のコミュニケーション教育のひとつとして進めていく事になりました。

ACTはアートを教える授業ではありません。芸術体験を通じて生きていくための力を学ぼうとするものです。そこでは試行錯誤や紆余曲折そのものを創造的な行為として推奨されています。そこには個人制作・共同制作が、課題を達成するための手段ではなく、作ること、描くこと、考えることそれ自体に価値があるという考えも含まれています。そして、この時間に生じる生徒一人ひとりのトライ・アンド・エラーを共感をもって支持し、それを創造性としてクラスや先生方と共有しています。

他人との比較による自信 (=優越感) ではなく、自分にGOサインを出し、目の前にあるものに挑み、たとえ失敗しても自分を認めてあげられること。それらを繰り返していくことで自分自身に信頼感が生まれてきます。

「上手くいく根拠はないけれど、やってみて良い」と自分に思える。

ここではその信頼感を自信と呼びたいと思います。その過程で『身をもって知ること』、つまり、身体的な知恵が意識され、蓄積され、自己が構築されることによるのみ、経験はその生徒の人生 (くらし) へと還元可能なものとなるのです。また、先生にとっては生徒やクラスの「今」や「変化」を観察したり、見守ったりする時間になっています。

この時間はコミュニケーションをテーマとするアートワークショップという、感性・表現・対話・共感・協働・共生について感じたり、考えたりする時間をつくり、それを通じて自己理解・他者理解の気持ちを育んでいくことを目的としています。この取り組みによる経験によって、生徒たちの日常や生活に向かう態度に少しずつでも自発性や積極性が育ち、できる/できないという機能性による自己実現だけでなく、過程そのものに意味や価値、楽しさを見出すことができ、それらが各人の自己肯定感、他者との合意形成力、社会へと繋がっていく力へと育っていくことを願うものです。

## 描くをかさねる。

3年生の初回は二人一組で1つの絵を描くというペアワークです。交互に1本ずつ計6本の線を引き、それによってできた形を交互に塗っていくというもの。そう、つまり「思うように描けない絵」なのです。このワークのユニークなルールは「相談して作らないこと」。お互いが描いたものだけでやりとりするしかなく、どう展開していくのかサッパリ読めません。ただ、「どんな一手を打てばこの絵は良くなるのか？」ということと向き合うしかないのです。

作業中、手が止まってしまうことがあります。相手のことを思うと迷ってしまうのです。丁寧に作業をしているな、と近寄ってみると、お互い線や色を重ねていないペアがいました。二人とも優しそうで、お互いの様子を伺っている様子でした。相手の描いたものに自分が手を入れていくのは勇気がいりますね。どちらかがエイっと踏み込めば、「あ、そうしてもいいんだ」というようなオープンさが生まれて少しずつ重ねていく面白さや変化していく様を楽しめますが、相手の気持ちを押し量るほどなかなか踏み込めない。自然なことです。

相手を傷つけるための攻撃はもちろんない方が良いですが、相手が困るのではないかと、自分が嫌われるのではないかと恐れて踏み込めないのも良いこととは言えません。「これはどうか？ここまでなら大丈夫かな、こうするとおもしろい」というような「関わり方」のバロメーターの針がいつもより大きく振れる場面になれば良いなと思っています。



2019年5月31日金曜日の3年生たちと。



2019年6月18日火曜日の1年生たちと。

## あそんだ地図。

新1年生にとって中学校やクラスの雰囲気にも慣れてきた6月。あらためてグループ内で自己紹介をしてみよう！というのが今回のワーク。話題は「あそび」です。小学校の頃に「どこで、どんな遊びをしたのか？」の地図を手描きし、グループ内で発表しあってもらいました。

描いている最中は、思い出話に花が咲いたり、黙々と緻密な地図を描く人、地図に悪戦苦闘する人も。なんとか形にし、地図をグループシェアする場面では、みなさんの他者の話を聞く態度がすばらしく印象的でした。ただ聞くというよりも、耳を傾けて、「こっちにおいでよ」と誘うようにメンバーを受け入れている生徒さんが多くいました。話すのが得意でない人に番が回って来た時には身を乗り出して耳を近づけて、うんうんと相槌を打って「聞いているよ」という態度を伝え、安心して話せるようにしている人も多くいました。

また、地図を描くという作業について先生方と話していた時に「自己肯定感がある生徒は描き出しが早いのではないか」というような話も出ましたが、これは他者の話を聞く態度にも共通しているようでした。みなさんの「こっちにおいでよ」という姿はとても寛容で、あたたかい気持ちになりました。

二人組になり、Aさんはある絵画を見て、それを見ていないBさんに印象を伝え、Bさんがそれを聞いて想像上の絵画を描いた後に全員で実物を見てみようというワークです。そこにある絵画はたった一つですが、見る人によって印象は幾通りにもなり、それを聞く人によってさらに思いもよらないものに変化していく様がとても面白い。ワークを通じて、私たちの目の前にある物事は、人が見聞きするやりとりの中でどう変化するんだろう、そして「本当のことっていったい何だ？」と、まさに哲学のような問題に挑んでももらいました。

今回が初実施でしたが、想像以上の盛り上がり！聞き慣れた「生徒のコミュニケーション力」という言葉と、目の前にあるエネルギーなやりとりとのギャップ…。生徒さんたちが面白がってくれたことに頼もしさを感じましたし、普段の学校生活では目にしたことのない力を発揮する生徒さんがいた、という先生方の話もありました。

コミュニケーション力を育くむには、話す・説明することが大事だという話になりがちですが、今回は、見る・聞くという「受けとる力」、受けとったものを自分なりに「解釈する力」ということに注目しました。それぞれの見方、聞き方の違いがとても面白いのです。

印象に残ったのは、Aさんの話を元に描きたいように描くBさん達でした。こういう絵は実物に近い絵と比べると「下手」と思われやすいのですが、実はそうじゃない。ただ解釈の仕方が違うだけです。想像力豊かで、イメージが膨らむほど実物から離れていくのは自然なこと。それは実物をみたAさんについても同じです。絵画を見て「これはこういう意味なんじゃないか」と勝手に仮説や物語を作る人がたくさんいました。聞いていると、本当にそうかもしれないと思わされる妙な説得力もあり、それが本当かどうかは誰にもわからないけど、そう思うとそういう風にしか見えなくなる。そうやって自分の中の絵画の印象がどんどん変わっていきます。

事実と解釈は違うということを理解した上で、それぞれの解釈も面白がって一緒にいられたら、怖いものなんて何ひとつないですね。

## よく見るってこと。

2019年7月2日火曜日の2年生たちと。



# フロッターージュ。

1920年代にフランスで始まったシュルレアリスム（芸術活動の一つ）では、ダリやピカソ等が有名ですが、その時代に生まれた絵画技法の一つ「フロッターージュ」は、私たちの身近な遊びとして知られています。10円玉の上に紙を乗せて鉛筆をこすりつけて柄を写し取る、というわかりやすいでしょうか。表面の凹凸を紙に写し取る技法です。このワークではベニア板と植物をフロッターージュします。ちなみにこのワークはスタッフの中で『座禅』と呼ばれています笑。そう呼んでしまうほど、集中力の要る作業。自分を消すほどに集中し、ひたすら丁寧に打ち込むことで、初めて見えてくるものがある。それを絵画技法を使って体験するためのワークです。

じめっとした曇りの天気の中で集中して手を動かしながら、目の前の葉や板と向き合うような時間は、色々考えることの多い三年生にとって普段とは違った集中や息抜き等、それぞれの向き合い方ができてちょうど良い時間に思えました。説明をよく見て聞いている生徒さんが多く、作業にも集中していました。以前に行った時と比べると、葉脈が見えないほど黒く塗ってしまう人、作業が雑で早く終えてしまう人がとても少なかったです。

2019年7月4日木曜日の3年生たちと。



大人が「いい子だな」「おとなしいな」と思うその反対の側面として、ある先生の「爆発・発散型の活動が苦手だったり、賑やかで騒がしい環境が嫌だったりする生徒もいる」という話も。集中型と発散型の切り替えについて、はたして本当に両方できることは必要なのかどうか…。でもきつと、両方をその人なりにやり過ごすような対処法を得てゆくことは生きやすさに繋がることなのだと思います。

2019年7月9日火曜日の8組のみなさんたちと。



4月に1年生という新メンバーが加わり、賑やかな空気に包まれた8組で今年初めてのACTの日。1年生の中には小学校でACTを体験した生徒さんもいれば、はじめましての生徒さんも。今回はナスの面白い形や、つるりとした手触り、匂いなどを感じながら、感じたままにのびのびと表現する『ナスの量感画』に挑戦してもらいました。

## ナスの量感画。

1年生は初めてのACTで少し緊張している生徒さんもいましたが、多くの生徒さんがのびのびと手を動かし、また3年生はこの時間がどんなものかもう分かっているので、ほどよく手を抜き力を抜いているようでした。「なんでナスの中の色から描くの？」と質問した人はいませんでしたが、疑問に思っても口に出していいのかわからなかったのかも。疑問を感じたら口にして良いということをおわかってもらえるよう工夫していきたいと思いました。

8組のみなさんは何かを作ることや表現していくことに対して「わかんない」とか「できない」という苦手意識があまりないのかもしれませんが、『目の前にあることを、ただやってみる』。そういうシンプルで、実は勇気のいることをこんなにも軽やかに自分もできたらいいのになあと思ってしまいます。